

新潟脳神経研究会特別例会の御案内

日時：平成29年8月7日（月）17:00～18:00

場所：脳研究所 1F 検討会室

無音検出におけるチャンネル間処理

森 周司 先生

九州大学大学院 システム情報科学研究院
情報学部門 知能科学講座 教授

無音検出（gap detection）は、ヒト聴覚の時間分解能の一般的な測定法であり、連続音中で検出可能な最小無音長（無音閾値）は数ミリ秒である。ところが無音の前後の周波数を異なったものにする、あるいは前後の音を異なる耳に呈示すると、無音の検出は困難となり、無音閾値は50ミリ秒以上となる。このように無音閾値が困難となる理由としては、無音の前後の音が聴覚系の異なるチャンネルで処理されるためと考えられている。本発表者は、無音検出における聴覚情報処理の詳細に関して、行動実験および脳磁図と聴性脳幹反応の測定を基に、検討を進めてきた。本発表ではこれまでの研究成果を報告し、チャンネル間処理を含む、無音検出の聴覚情報処理を説明する。

どうぞ奮ってご参加ください。